

1月からの再登校に向けて安心感を

もうすぐ、子どもたちは楽しみの多い冬休みに入ります。本年度は始業日である1月8日が木曜日のため2日間の登校で週末に入り、新年をきっかけに再登校する子どもにとっては比較的無理のない日程になっています。「不登校児童生徒に対する支援チェック表(本資料 第22号に掲載)」の「中期過程(つながる)」以降の状態である子どもたちには、信頼関係をもとに、積極的にかかわっていくことが必要です。キーワードは、「安心感」です。そこで、再登校を試みる場合のポイントについて、ご紹介します。

1 関係づくりの中で、登校に対する意思の確認を

できれば学校、無理な場合は家庭で

トランプやバトミントン、料理づくり等で遊ぶ。

登校に対する意思の確認

「行ける」「行けない」ではなく、「行けるものなら行きたい」のか「行きたくない」のかを聴く。

「行けるものなら行きたい」と答えた場合

できる援助をしたいという気持ちを伝え、「始業日に登校する気持ちをふくらませるものと邪魔するものがあるとすれば、それは何かな？」と当日の朝の様子をシュミレーションする。



2 始業日前日(1月7日)にしたいこと

前日が一つのヤマ

「明日のリハーサル」ということで、本人の可能な時間に付き添い、登校を試みる。

校門まで来たら？

子どもに尋ねて、「今日はここまでで帰りたい」ということであればそれ以上引っ張らず、「今日は、校門まで来ることができたね。それで今の気持ちを聴きたいけど、『始業日は行かない』という気持ちを0、『始業日だけは行く』という気持ちを10としたら、今の気持ちはいくつくらい？」と聴いてみる。

校門の中に入れるようだったら？

教室に入るかどうかの意思を確かめながら、明日の流れを説明して不安を減らし、教室の準備などを手伝ってもらおうとよい。人の目を気にする子どもが多いことから、皆より早く登校することを勧めることも有効な方法である。そのときは一人で来るか、保護者と来るか、誰が誘うか、どこで待っているかなど、具体的に本人の気持ちを確かめていく。「明日は絶対来てよ」といった過剰な期待を寄せる言葉は厳禁である。

3 始業日当日の迎え方

先生は、前日までの約束に従って行動する。ケースに応じて教職員だけでなく、子どもたちの力も借りる。帰りに、「私は君に学校で会えて嬉しかったよ。君はどうだった？ 明日はどうしたい？」と聴きながら無理しすぎているようならば、保健室・相談室登校の選択を含めて、「学校に行きたい」という願望を実現するための計画と一緒に考える。

【引用文献】「始業式前後に、新担任ができること」、大阪府箕面市教育センター指導主事 米田薫、月刊学校教育相談所収、2001年4月号、ほんの森出版

連絡先： 高知市教育研究所教育相談班 TEL：088-832-4498・4497